

日本都市社会学会ニュース

NO.100 (2015. 3. 31)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9
ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科 二階堂裕子研究室内
Tel：086-252-3329／Fax：086-252-5145
e-mail：usocio@urbansocio.sakura.ne.jp
URL：http://urbansocio.sakura.ne.jp/
(振替口座：00140-4-703976)

日本都市社会学会 第33回大会

歓迎の言葉

高畑 幸（静岡県立大学）

日本都市社会学会第33回大会を、2015年9月12日（土）、13日（日）の日程で静岡県立大学谷田キャンパスにて、お引き受けすることになりました。

日本の都市および地域社会の諸課題に「現場主義」で関わる研究者が年に一度集まり、率直かつ活発な議論を交わす場となってきた日本都市社会学会大会を、静岡県立大学において開催できることを大変光栄に思っています。

静岡県立大学は、静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学が統合して1987年に開学しました。谷田（やだ）キャンパス（駿河区谷田）と小鹿（おしか）キャンパス（駿河区小鹿）の2か所からなっており、谷田キャンパスには、薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、看護学部の5学部、小鹿キャンパスには短期大学部があります。本年度の大会をお引き受けするのは、谷田キャンパスにある国際関係学部です。国際関係学部は、国際関係学科（国際政治経済コース、国際行動学コース）および国際言語文化学部（英米文化コース、ヨーロッパ文化コース、アジア文化コース、日本文化コース）からなり、国際行動学コースが社会学および文化人類学の教員で構成されています。家族社会学、社会心理学、障害学、犯罪社会学、国際社会学の社会学者がおり、日本都市社会学会会員は高畑のみです。2つの学科で合計62名の専任教員を擁する、学際的で自由な雰囲気にあふれる学部です。

静岡県立大学谷田キャンパスには、静岡駅からJR東海道線で2駅の草薙（くさなぎ）駅から徒歩15分ほどです。会場は国際関係学部棟を使用します。吹き抜けの明るい建物で、資料交換や書籍購買の場所も作ります。

このたびの学会大会を契機として、静岡の地で日本都市社会学会会員が増えることを期待しつつ、皆様方をお迎えする準備をいたします。会員の皆様のご来校を心より歓迎申し上げます。

大会案内（会場・交通・宿泊）

1. 期間および会場

期間 2015年9月12日（土）～9月13日（日）

会場 静岡県立大学谷田キャンパス国際関係学部棟

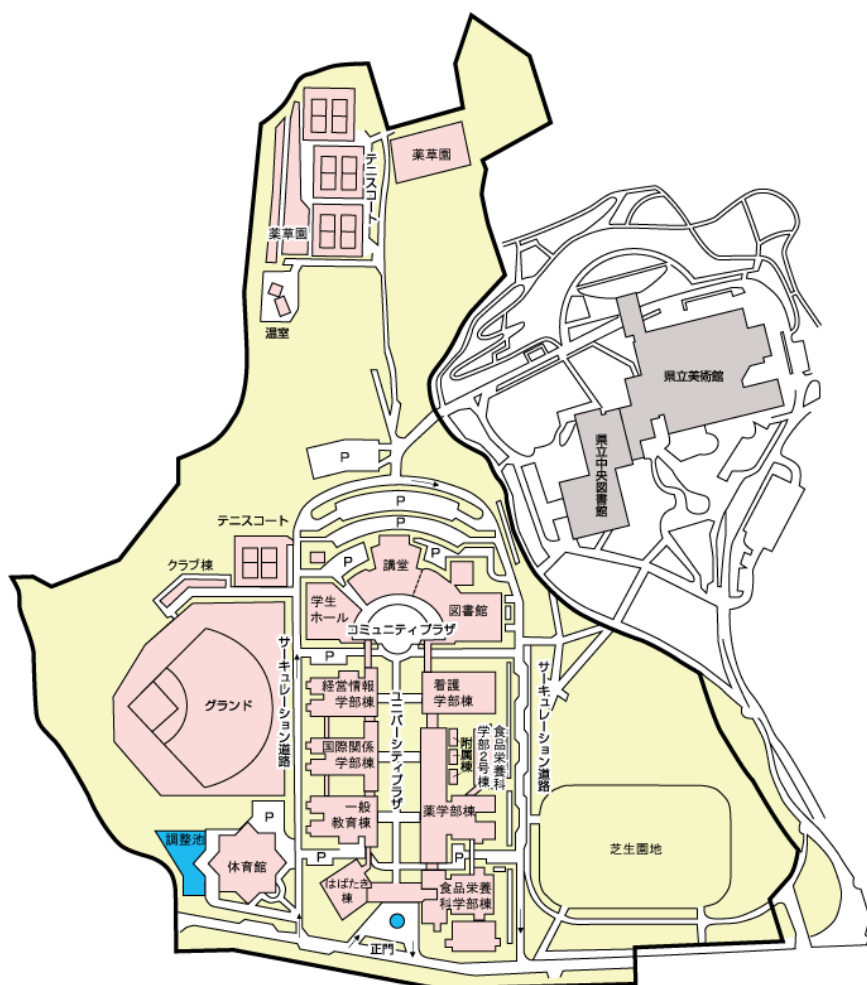
（〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1）（下記のアクセスおよび地図参照）

食事 学内の食堂は閉まっています。昼食はご持参いただくか、隣接の県立美術館（徒歩3分）のレストランをご利用下さい。なお、近くのコンビニまで徒歩5分です。懇親会会場は学外の和食レストランを予定しています。

2. 交通のご案内

- (1) 東京駅から：基本的なアクセスは、東京駅→静岡駅→草薙駅です。東京駅から静岡駅は、1時間に1本ある「ひかり」に乗ると1時間です。静岡駅からJR草薙駅は、東海道線で2駅（約7分）です。草薙駅から谷田キャンパスまでは緩やかな上り坂となっています。徒歩約15分ですが、タクシーでワンメーターですので相乗りをしていただいても良いと思います。（駅に案内係の学生が待機しています）
- (2) 関西方面から：新幹線の「ひかり」に乗ると、乗り換えなしで新大阪から2時間、京都から1時間半、名古屋から1時間で静岡駅に着きます。その後は同上です。
- (3) 岡山以西から：名古屋まで「のぞみ」、名古屋から「ひかり」に乗り換えて静岡に来られるとスムーズです。その後は同上です。

3. 静岡県立大学谷田キャンパス：〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1



*大会会場の詳細な案内図は、「日本都市社会学会ニュース」(7月号)に掲載させていただきます。

4. 宿泊のご案内

静岡駅周辺にはホテルが多数あります。楽天トラベル

(<http://travel.rakuten.co.jp/>)、じゃらん (<http://www.jalan.net/>) 等の宿泊情報をご参照の上、ご予約下さい。草薙駅周辺にはホテルがありません。

大会企画（企画委員会報告）

第33回大会に向けて、「テーマ部会」、「シンポジウム」、「テーマ報告部会」の3つの企画を準備しています。

シンポジウムは、「震災をめぐる土着・流動とコミュニティの再生」をテーマに設定しました。昨年度のテーマ部会、「東日本大震災と都市社会学」で展開された震災によって生じた人の移動や避難先の受け入れ地域の再編などに関する諸問題について、「土着と流動」ならびに「コミュニティの再生」という視点から継続して検討することになりました。

テーマ報告部会は、「ジェントリフィケーション」をテーマとして開催されます。昨年のシンポジウム「都市中間層と居住空間の再編」では、日本の都市におけるジェントリフィケーションについてどのように考えるか、経験的調査の知見を踏まえた議論が求められました。そこで今年度のテーマ報告部会は、ジェントリフィケーション概念が提示している視角について確認し、日本の都市研究におけるその意義について検討することになりました。

3つめの企画として、テーマ報告部会を開催します。第29回大会より新たな試みとして設置されたテーマ報告部会を、第31回大会に引き続き開催するものです。テーマ報告部会は自由報告部会とテーマ部会の中間に位置づけられ、緩やかな共通テーマを設定したうえで報告者を広く募集する部会です。これまで日本都市社会学学会への参加の経験がなかった方にも（会員になることによって）報告していただき、学問的蓄積を共有することを目的としています。次回のテーマ報告部会は「都市下層研究の現代的展開」というテーマを設定して、報告者を広く募集します。標記のテーマに関する分析・研究している会員の積極的な応募をお待ちしています。

以上、3つの企画の趣旨や概要について、詳しくは、それぞれの説明文をお読みいただければ幸いです。

（企画委員会委員 内田龍史）

テーマ報告部会 「都市下層研究の現代的展開」

【報告者募集】

【趣旨】 次回の第33回大会では、「都市下層研究の現代的展開」と題しテーマ報告部会を実施いたします。グローバリゼーションの下、都市の（再）編成が進みつつあるなかで、都市下層は従来との重なりをもちつつも異なるかたちで析出されていると、多くの研究が指摘してきました。現在、寄せ場や被差別部落等、旧来からの貧困地域は、その特徴を保持しつつも全体社会の社会変動とともに日々変化しています。古い構造／新しい構造がせめぎ合い、都市が直面する社会的課題が複層化する一方で、個々人が抱える多様な困難に向き合う支援の取り組みが各地で発達してきています。国による法整備も進められ、全国の地域社会は社会的排除の克服に向けた今後の仕組みづくりが課題となっています。

テーマ報告部会では、現代都市における貧困・差別・排除とそれに関わる諸事象の現代的展開およびその社会（学）的意味について、複数の調査研究をもとに検討し、議論を深めていきたいと思えます。特に若手研究者の報告を歓迎します。ふるってご応募ください。

- ・ **申し込み締切**：2015年4月24日（金）18時（必着）。件名に「テーマ報告部会申し込み」と明記の上、氏名、所属、連絡先、報告題目をメールでお知らせください。
- ・ **報告要旨提出の締切**：2015年6月7日（日）18時（必着）。
- ・ 報告要旨は自由報告部会と同じ形式で作成してください（50字×20行以内）。ファイル名は「33theme***」（***の部分は名字のローマ字（例えば33themetsutsumi））としてください。また、メールの件名をテーマ報告部会要旨送付であることがわかるものにしてください（例えばテーマ部会報告要旨送付／堤）。
- ・ **申し込み先**：日本都市社会学学会事務局（usocio@urbansocio.sakura.ne.jp）
- ・ 希望者多数の場合は、自由報告に回っていただくことがあります。
- ・ 本件に関する情報は日本都市社会学学会のホームページにアップされますので、ご覧ください。また、お問い合わせはテーマ報告部会企画委員・堤圭史郎までお願いいたします（tsutsumi@fukuoka-pu.ac.jp）。

（企画担当委員 堤圭史郎）

テーマ部会 「ジェントリフィケーション」

【趣旨】 テーマ部会では、「ジェントリフィケーション」について論じる。昨年のシンポジウム「都市中間層と居住空間の再編」では、人口の都心回帰について都市中間層の居住選択と関わらせて捉えることで、社会階層的な視点を導入することを試みた。この時に居住空間の再編についていくつかの論点が出されたが、なかでも日本の都市におけるジェントリフィケーションについてどのように考えるか、経験的調査の知見を踏まえた議論が求められた。

確かにジェントリフィケーションは英語圏を中心に広く国際的に共有され、研究蓄積の進んだテーマであるが、日本の都市社会学では必ずしも十分な検討を与えられた概念ではなく、論点とされることもなかったように思われる。ひとまずこの用語の意味を、特定の地域の住民がより高い社会階層へ入れ替わっていく過程を批判的に捉えた概念であり、それが生じるメカニズムについて政治経済的あるいは社会文化的な観点から分析しようとするさまざまなアプローチを包括するものとしておこう。日本の都市社会学もあるいは、ジェントリフィケーション論と同様の問題関心にに基づきながら、それとは異なる概念や理論的・社会的文脈に依拠した経験的研究が続いてきた可能性もある。そこで、一度この概念が提示している視角について確認し、この概念を用いることで現在日本の都市で進んでいる過程の理解がより深まるのか、またこれまでの対象の捉え方がどのように変わりうるのか、日本の都市研究におけるその意義について検討したい。

(企画担当委員 下村恭広)

シンポジウム 「震災をめぐる土着・流動とコミュニティの再生」

【趣旨】 昨年のテーマ部会「東日本大震災と都市社会学」では、地方都市・農村の生活構造に焦点を当て、それらが2011年3月11日に生じた東日本大震災によって解体・分裂・分断にさらされている現状を明らかにした。これまで日本都市社会学会では、流動型社会・人口減少社会における地方都市の生活様式、移住の実態、居住地に縛られないネットワークによる過疎地での問題解決などを議論してきたが、今年のシンポジウムは、昨年のテーマ部会で行われた議論と問題意識を受けて、震災後の生じた人の移動とそれに伴う都市・地域社会の変容を、「土着・流動」ならびに「コミュニティの再生」という視点から議論していきたい。

第一報告は、震災後に生じた人の移動と地域社会における対応について、住民の居住・生活様式のありよう、東日本大震災における復興事業や、次の巨大地震の「津波被害想定地域」の防災対策（事前対策）に関連づけた研究報告を予定している。

第二報告は、東日本大震災によって生じた避難生活とコミュニティの再生を考えるうえでも、以前の災害の経験から学ぶ必要があることから、2000年に発生した三宅島噴火災害の経験について、三宅島の島外避難とコミュニティの再建・変容に関する報告を予定している。

第三報告は、東日本大震災における福島第一原発事故によって、避難を余儀なくされている原発避難者の生活再編に関する研究報告を予定している。

(企画担当委員：内田龍史、五十嵐泰正、浦野正樹、速水聖子、室井研二)

第33回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7月発行の「学会ニュース」（第101号）に自由報告要旨を掲載することになっております。自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

(1) 自由報告の申し込みおよび報告要旨の提出方法（締め切り：2015年6月7日（日））

次の①～⑤をA4サイズ1枚に記し、保存した文書ファイルを、6月7日（日）午後6時までに学会事務局 (usocio@urbansocio.sakura.ne.jp)宛に、E-mailに添付してお送りください。添付ファイルは、テキスト形式または「Microsoft Word」形式、ファイル名は「33jiyu ***」（***は報告者の名前をローマ字で入れる）としてください（例 33jiyu nikaido）。提出後の内容の修正は、受け付けません。

- | |
|--|
| ① 報告タイトル(仮題は不可)
② 報告者氏名・所属（共同報告の場合は登壇者に○）
③ 報告要旨（50字×20行以内を厳守）
④ 発表時に使用する機材
⑤ 連絡先（郵便番号・住所・電話番号・E-mailアドレス） |
|--|

申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けませんことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項（必ずお守りください！）

- ・ 共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。
- ・ 報告要旨は、「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください（学会ニュース1ページに2つの報告要旨を掲載します）。
- ・ この要領に反し、本文が1行50字で20行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内に訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。
- ・ 大会当日にレジュメ／資料を配布する場合は、各自で別途ご用意ください。
- ・ 使用する機材については、会場の都合により不可能となる場合もあります（パワーポイントを使用する場合、PCは持参してください）。

＜自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出方法＞

締 切	: 2015年6月7日（日）午後6時 必着
申込み・報告要旨原稿提出の方法	: E-mailによる
申込み・報告要旨原稿提出先	: 学会事務局 usocio@urbansocio.sakura.ne.jp

（事務局担当理事 二階堂裕子）

会員の皆さまへのお知らせ

編集委員会報告

- (1) 『日本都市社会学会年報』第33号の編集作業が進行中です。特集は、「都市中間層と居住空間の再編（仮題）」です。ご期待ください。
- (2) J-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpasurban>)にて『日本都市社会学会年報』第31号(2013年発行)まで閲覧可能です。学会Webサイトにもリンクを貼っておりますので、是非ご利用ください。
- (常任理事・編集委員長 稲月 正)

『日本都市社会学会年報』34号 自由投稿論文・研究ノートの募集について

【募集】

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』34号(2016年9月発行予定)に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』32号(2014年9月発行)に掲載されている投稿規定および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を**2015年11月30日(消印有効)までに**、下記の編集委員会事務局あてに郵送して下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。**投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。**

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1
北九州市立大学 基盤教育センター 稲月研究室内
日本都市社会学会編集委員会事務局
E-mail : inazuki@kitakyu-u.ac.jp

※ なお、次回大会での役員交代により編集委員会事務局は移転する予定です。それにともない2015年9月以降は原稿提出先住所も変更となりますので、新事務局が決まり次第、学会のWebページやニュース等でお知らせいたします。それまでにご投稿いただいた論文等につきましては、次期編集委員会に責任持って引き継ぎを行います。

(常任理事・編集委員長 稲月 正)

国際交流委員会報告 韓国地域社会学会大会への派遣について

日本都市社会学会と韓国地域社会学会の学術交流協定に基づき、2015年度は日本から韓国への派遣の年となります。2015年度の大会は、4月24日～25日に韓国全羅南道光州市にある全南大学校で開催されます。大会のテーマは「地方分権とローカリティ」ということです。

韓国地域社会学会から日本都市社会学会側に、この日程の連絡があったのが2月中旬であったために、急遽、理事会推薦という形で発表者を募集いたしました。種々の事情を考慮して、渡戸一郎理事に報告をお願いすることになりました。本来ならば、会員に広く公募をしたいと考えておりましたが、日程が切迫していたために、このような形になりましたことをご理解ください。

なお、谷富夫会長、鯉坂学理事、そして、私(山本かほり・国際交流委員長)が大会参加をすることになっております。

今後も両学会の活発な学術交流を目指し、その形式についても、両学会間でさらなる合意形成を目指すべきだと考えております。

今後とも会員のみなさまの積極的なご協力をお願い申し上げます。

(国際交流委員長 山本かほり)

理事会報告

2014-15 年度第 2 回理事会が、2 月 28 日(土)午後 3 時から立教大学池袋キャンパスにて開催されました。企画委員会担当者より、2015 年度大会のシンポジウム、テーマ部会、およびテーマ報告部会の準備状況について報告がなされました。編集委員会担当者より、年報 33 号の査読状況の報告がなされました。国際交流委員会担当者より、来年度における韓国地域社会学会との交流は、2015 年 4 月 24・25 日に韓国の全南大学校(光州市)にて、「地方分権とローカリティ」をテーマに開催されることが報告されました。学会賞選考委員会担当者より、第 9 回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)の選考が開始されたことが報告されました。社会学系コンソーシアム担当者より、2015 年 1 月 24 日に開催された社会学系コンソーシアムの評議員会の審議内容について報告がなされました。事務局担当者より、学会の財政状況やこれまでの学会大会参加者数の推移について報告がなされました。また、外国籍会員の入会金減額、学会賞推薦委員の任期、海外データベースへの参加、学会ニュースの発行、第 33 回大会の開催、入退会の承認について、それぞれ審議されました。

(事務局担当理事 二階堂裕子)

鈴木 廣 先生 追悼文

2014 年 11 月 13 日夕刻、鈴木廣先生が享年八十四(満八十三歳)にて逝去されました。奥様からの翌年 1 月 15 日付のおたよりによって初めて御逝去を知ることができました。大きな悲しみと何とも言えない喪失感におそわれ、茫然自失の状態がしばらく続きました。戦後の日本都市社会学において、ひときわ輝く光芒を放ち、学会の創設者として初代会長としてつねに学会員をリードされ、都市社会学研究のフロンティアを開拓されていらっしゃったことは、誰もが認めることです。日が経つにつれ、たいせつな支柱を失ったという思いが深まります。

二つの主著『都市的世界(1970 年)』と『都市化の研究(1986 年)』において展開された議論と成果は、日本都市社会学に残る不朽の業績と言えます。前者はいわゆる「釜石調査」の総括論文を筆頭に、日本社会の底辺と辺境からのアプローチを通して都市的世界としての日本社会の研究を志向する貴重な諸論文から構成され、媒介過程の析出、産業都市の類型化、社会移動論への独自の関心など、今後も継承すべき魅力的論点と知見に満ちあふれています。後者は、先生の学位論文でもありますが、コミュニティ・モラルと社会移動の分析図式、また生活構造論的方法的意味をめぐる重厚な記述にまずは圧倒され、ついでコミュニティ分析と社会移動論を統合する都市社会学の到達点が開示されていることに気づいて感動を覚えたものです。先生の著作は、枠組の堅牢性と論理の明晰性に貫かれながら、知見に対しては誠実で思慮深く柔軟な対応をとられている点で、まさしく稀有の輝きをもっていました。

先生に直接お会いし、お話をうかがう最初の機会をえたのは、今から 39 年前、福岡県大川市の旅館で、首都圏在住の都市社会学者 8 名が鈴木先生を囲む座談の会をもった時でした。もの静かで寡黙な方だという印象が強く残りました。その後、日本都市社会学会が設立され、大会開催のつどお会いできるようになりましたが、親しく接していただけるようになりましたのは、東京都立大学大学院の集中講義にお招きした時からであったと思います。二人で酒を飲み、カラオケで大いに盛り上がったこと、その時の先生の笑顔が、今では懐かしく憶い出されます。御自宅もお訪ねし、相談にのっていただくこともありましたが、折にふれて長文のお手紙をいただいたことは忘れることができません。身の程知らずにも、5 代目の会長に選出された時にいただいたお手紙は、設立者として初代会長として教えておきたいこと、伝えておきたいことが、びっしりと書かれたものでした。お前にはわかるよなという先生のお気持ちがひしひしと伝わってくる文面でした。

先生の訃報に接してから、2 ヶ月近く経ちました。しかし、まだ何とも言えぬ寂寥感をぬぐいきれません。これまでの温かいご指導にあらためて心から感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。合掌。

(放送大学 森岡清志)

会員異動

◆ 退会会員（2015年2月28日理事会承認）

＜中国・四国・九州地区＞ 小川 全夫
＜関東地区＞ 牛島 千尋

（事務局担当理事 二階堂裕子）

学会事務局からのお知らせ

◆ 2015年度 会費納入のお願い

学会費の振替用紙を同封させていただきました。2014年度会費を納入していただきました会員の皆様、2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）の会費も、できるだけ早めの納入をお願い致します。2013年度より一般会員の年会費が6500円となりました（学生会員は4000円のまま据え置き）ので、お間違いないようお願い申し上げます。外国籍会員の場合、年会費減額の措置が適用される場合もあります。詳しくは、学会のホームページをご参照ください。

また、2014年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入してくださいませよう重ねてお願い申し上げます。

なお、本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関（一部を除く）と相互に振込ができるようになりました。振替用紙を使わずに振り込むことができますし、振込記録は事務局宛に送られてきますので、事務局が振込を確認することもできます。他の金融機関から本学会の口座に振込む場合は次の通りです。

銀行名	: ゆうちょ銀行
預金種類	: 当座
店番	: 019
店名（カナ）	: 〇一九店（ゼロイチキュウ店）
口座番号	: 0703976
受取人名	: ニホントシシャカイガッカイ

◆ 第33回大会へのご参加のお願い

次回学会大会は、2015年9月12日（土）、13日（日）の日程で静岡県立大学谷田キャンパスにて開催されます。是非ともご参加いただき、大会を盛り上げてくださいますよう、お願い申し上げます。

◆ ご所属先等変更のご連絡のお願い

新年度より、ご所属先やご住所等が変更となる会員の皆様もおられるかと思えます。その場合は、事務局へメールやファックスにてご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

（事務局担当理事 二階堂裕子）